

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892200441		
法人名	株式会社 ベストウェル		
事業所名	グループホーム くに林		
所在地	兵庫県加古川市平荘町小畑1328-19		
自己評価作成日	平成29年11月27日	評価結果市町村受理日	平成30年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JivovsvoCd=2892200441-00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所 北別館内		
訪問調査日	平成29年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境を十分に利用し、入居者様が穏やかに、笑顔溢れる日々を過ごしていただける様、ホームの玄関やテラスでお茶を飲んだり、歌を唄って楽しんでいただいています。四季の移ろいを感じていただくため、ドライブや地域の行事への参加も積極的に行っています。特に力を入れている事は、「尊厳」と「自立」で職員が業務優先ではなく入居者様と共に時を過ごし、お一人おひとりのその日、その時の状態や意思を尊重し寄り添い、個々の生活リズムを大切にしています。過剰介護にならないように、日々研鑽し、出来る事、出来ない事の見極めをしています。毎日行っている「くに林体操」では入居者様、職員と一緒に笑い、体を動かしても貴重な時間を共有しています。職員はそれぞれの持ち味や、良い面を活かし、入居者様がその人らしい生活を送っていただける様、意見を出し合えるチームワークの良い事業所です。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設15年目を迎える事業所は2016年11月に運営法人の変更があったが、運営理念や運営方針は継承され管理者を中心にチームワークのよい職場運営がされている。特に利用者の「尊厳と自立」を守りその人らしい生活リズムを意識したケアや家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。自然環境に恵まれた事業所は、反面自然災害との背中合わせにあり、利用者の安全対策でも行政の指導を受けて、「土砂災害マニュアル」作りや自主避難に積極的に取り組んでいる「モデル事業所」でもある。定期的実施される消防避難訓練でも、自治会等地域の協力体制が構築されている。目標達成計画の取り組みでも着実に成果が得られている。今後も高齢化や重度化を踏まえさらなるサービスの質の向上に取り組み、新たな目標達成計画の実現にも期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の 関係者とのつながりが広がったり深まり、事業 所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、ミーティングの時間に理念と方針を読み合わせて、理念の下運営されていることを共有し、実践につなげている。	運営母体の変更になり1年目となっているが、従前から慣れ親しまれている事業所理念を継続されている。毎朝、朝礼で理念・方針を職員全体で唱和し、日々の支援の源となっていることを確認している。今後は「認知症カフェ」に取り組みたいとの管理者の熱意を伺い、さらなる地域密着型サービスの実践に努めてほしい。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には民生委員などに参加して頂いている。くに林の夏祭り、運動会など開催し交流を図ったり、地域の夏祭りや、小学校の行事に参加している。ボランティア、小学校の生徒の慰問、地域の季節ごとの花を見に行ったりしている	毎年、学校行事として、小学生が慰問に来られ、利用者と交流する機会がある。また地域の祭りや保育園の行事に参加し、「くに林体操」を地域の老人会や保育園で広めるなど、地域とのつながりを広げていくように努められている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族より、入居者様の配偶者や、義理の親の相談をうけることもある。他にも見学、電話等で相談を受けている。介護保険の説明や、包括の紹介をする。	/	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の活動、ヒヤリハットについてやケースカンファレンスの内容などを運営推進会議で報告したり直接入居者とのゲームに参加してもらい理解を得ている。その時の意見を、ミーティングや勉強会で話し合うようにしている。	定期に行われている運営推進会議では、民生委員、市の担当者、地域包括支援センター職員、家族、利用者等で話し合われ、毎月の活動報告や、救急救命講習を行ったり、防災の話をしてもらっている。また、利用者とゲームを一緒に行うなど、認知症の理解や意見をいただきサービス向上に努められている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内をして、出席してもらっている。台風時には危機管理室と連携を取り避難の指示をもらったり、介護保険課に相談している。	運営推進会議に出席していただき、運営面や利用者について日頃から相談に乗って頂いている。また、台風時には、危機管理室と連携し、避難指示をもらっている。今後の運営や防災について立地の条件等、担当者と相談され、協力関係が築かれている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
6	(5)		○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現任研修や勉強会で拘束、抑制について正しく理解したうえで、入居者に当てはめて職員に考えてもらっている。玄関の施錠も音が鳴ることで回避し外に出たい方は一緒に外出したり、少し離れて見守っている	年間研修計画の中に、身体拘束防止を盛り込まれ、職員会議において学習されている。また日頃の不適切な事例等があった場合には、ミーティングで新しい職員にもわかりやすいように、説明が行われている。玄関においても施錠することなく、ベルが鳴ることで分かるようにし、外に出たい時には、職員が付き添うように取り組まれている。今後は、センサーマット使用されている方の、記録の書き方や、計画に沿って行うこと、会議について検討したことをまとめ、身体拘束をしないケアについてさらなる取り組みに努めてほしい。	
7	(6)		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現任研修や勉強会で虐待について学び、理解を得ている。入居者、職員の精神的安定を図り、虐待防止につなげている	年間研修計画の中で、高齢者虐待防止について勉強し、どうすることが虐待になるのか、日々のサービスの中で考えるように指導されている。職員がストレスを抱えないように、「お疲れ様」と声かけあうようにし、何でも話し合える職員間の連携体制が整っている。管理者が察知し、個別で様子を聴くようにされており、事業所内での虐待が起らないよう注意を払い、防止に努めている。	
8	(7)		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度について勉強会を行っている。	権利擁護・成年後見制度については、年間研修計画の中で予定されており、申し込みをされて待機待ちの方の中には、成年後見制度を利用されている方もいる。職員の学習は昨年度もされており、パンフレットも準議されているが、地域の人や家族の方が来られた時に、いつでも見られるところへの設置が望まれる。	
9	(8)		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際は、利用者様それぞれ、疑問や不安点が違うため、しっかり時間をかけて説明をしている。改定や加算の変更については説明の上、同意書もらった	契約の締結に至っては、事業所を見学していただき十分サービス内容について説明し理解を得てから契約を行うようにされている。利用者、家族には重要事項を用いて説明を行い、金銭面のことや、重度化になった場合のことなど、不安に思われることには納得される丁寧に対応され、そのうえで書面での同意確認をされています。	
10	(9)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払いを直接持参していただき、最低でも月に1回はホームに足を運んでもらえるようにしている。その際に、本人の様子、ホームでの状況を伝え、意見を伺えるようにしている。運営推進会議や行事への参加の案内を送り、運営に関しての意見を頂きたい旨を伝えている	家族の方との交流が図られており、面会時や電話などでも、意見や相談を受けること機会は多くある。家族会等はないが、個別で受けた意見をミーティングで職員に周知されている。今後は満足度アンケートの実施など、法人全体で行う取り組みに努めてほしい。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	最低月に1回の会議、毎朝のミーティングで職員の意見や提案を聞く場を設けている。普段でも、意見を言いやすい環境を心がけている	職員会議やミーティングなどで職員の意見を聴く機会としているが、日常のケアの中で気付いた時に、提案や意見を聴くことの方が多い。その個人の意見を会議等で話し合わせ、職務形態や業務の改善が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期昇給に加え処遇改善加算の支給、キャリアパスの整備などでやりがいを感じてもらい、長く働けるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は1月に1回リーダー会議等で本社に行き、他事業所のリーダーや代表者と事業所の問題点を話し合ったり勉強会をしている。内部、外部の研修も受講できるようにシフトを組んだり、機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二市二町グループホーム協会の勉強会、研修、親睦会に順番に参加出来る様にしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安を少しでも軽くできるよう、人間関係の構築に努め、話しやすく、住みやすい環境づくりをしている。不安が大きいような時は、色んな人が関わるのでなくなるべく同じ職員が関わるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人の望む生活をしっかり聞き取り、ホームでの生活の説明をしながら、安心した生活を送っていただけるよう一緒に考え、関係を作っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の望む生活をしっかり聞き取り、ホームでの生活の説明をしながら、安心した生活を送っていただけるよう一緒に考えながら支援する		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が業務優先にならず、一人、ひとりと寄り添い共に時間を過ごしている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子、状況を毎月報告し、支払い時最低1回は足を運んでいただき、話し合いながら、本人を支えている。遠方への外出や墓参りなど家族でしか出来ないことはお願いしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問や外出などで、関係が途切れないようにしている。お弟子さん達や友人が来てくれる方もいる。	地域ボランティア、知人、友人、以前のお弟子さんや教会の方などの訪問がある。結婚式や法事などに家族と出かけたり、墓参りや家の近くの喫茶店に出かけるなど、希望に沿った馴染みの関係継続支援がなされている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は部屋ではなくホールや自分の好きな場所で思い思いに過ごしている。一緒に仲良くソファーに座っていたりや外を見ながら話をしていることが多い。職員も一緒に話に参加させてもらったりする。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も、相談や支援に応じることを伝え、関係を保ちながら、状態を把握している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを真摯に聞き取り、把握できるよう心がけている。申し送り時やケースカンファレンスなどで職員で話し合い、共有している。	日常生活の中で聞き取った一人一人の思いは、ケース記録に記録され、申し送りで職員間の共有が図られている。困難な方には、表情や仕草で汲み取り、職員で話し合いが行われ、意向の把握に努められている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人、ケアマネに生活歴、サービスの経緯などをしっかりアセスメントし、把握に努めて、職員全員が共有出来る様にしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りやケースカンファレンスで、本人の状態や、出来ること、出来ないことなど現状の把握に努めている。過剰介護にならない様、残存能力を十分に使うだけに見えるよう見極める力をつけている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りや会議で個別に現状や課題を話し合い、関連事業所、家族にも意見をもらいながら現状に即した介護計画を立てている。	毎月、担当職員によるモニタリングが行われ、計画に沿ったケアについて見直しがなされている。短期目標ごとに介護計画の見直しが行われ、ドクターや看護師、家族や利用者の意見や要望をまとめ、モニタリング記録を基に介護計画が策定されている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や話した内容を個別記録、業務日誌に記入し、職員で共有して介護の実践に繋げている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	おおまかな時間は決めているが本人の状態やその日の天候などにより、時間にとらわれることなく柔軟に対応したり、決められたことを絶対するのではなく、個別な支援をしている。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	手品、民謡、和太鼓などたくさんのボランティアの訪問をお願いしている。近隣の神社に初詣したり、夏祭りに参加して一緒に楽しんでいる。小学校の生徒も慰問してくれている。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医の訪問診療を月に2回受け24時間対応で関わってもらっている。入居前のかかりつけ医に家族で受診して、情報を共有し支援している方もおられる。歯科医、眼科医の訪問診療も受けている。	月に2回の協力医による訪問診療が行われている。歯科や眼科医の訪問診療も行われており、医療の情報は家族に連絡され共有ができています。以前からのかかりつけ医の、継続受診を希望される利用者については、家族の協力を得て受診支援が行われている。精神科等への受診に際しては、情報提供書を書いて、利用者の様子を知らせ、投薬などについては、調剤薬局を通して医療機関と連携が図れている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問が月に2回ある。介護職は身体面など気付いたことがあれば、看護師に相談、報告し、適切な対応や受診が出来る様になっている		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院自体がほぼ無いが、入院した際は、情報提供を行い、病院と情報交換をして関係を作り、家族の不安を察して相談にも応じている。	利用者の入院自体があまりない。入院に際しては、情報提供を書面で行い、面会に出向き、状況を確認し、病院関係者と協働しながら早期の退院に向けて働きかけが行われている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期について、ホームで出来ることを説明し家族で話し合ってもらい事前指定書の記入を依頼している。事前指定書は一度もらえばそれに従うのではなく、本人の状況に応じて、家族と話し合いながらその時々のお思いをくみ取りながら確認をしている。	入居時に重度化や終末期に向けて、事業所としてできることなどを利用者・家族に説明し、事前指定書の記入を依頼されている。看取り事例もあり、加算等は設定されておらず、自然な形で希望に沿った事例が伺えた。今後医療連携加算や看取り加算等を配慮に入れた、終末期に向けた体制の充実が期待できる。	法人全体として、今後の事業所における終末期に向けての方針を明文化することが望まれる。そして、家族や関係機関、地域へと発信し、看取りに対する研修やマニュアルの充実、職員の意識の統一など、仕組みの明確化が望まれる。併せて緊急に備えての延命処置への希望把握など、早い段階で利用者、家族と話し合う機会が必要と思われる。
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議や現任研修で緊急時や、事故発生時の対応を学び、緊急時にすぐ見れるよう必要なことを1冊のファイルにまとめている		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	台風時に今年度だけでも自主避難を3回した。相当早めに決断がいるが、安全に避難できている。職員も回を重ねると要領をつかみスムーズにできるようになってきている。訓練は消防を呼んで2回行ない、色々な災害に対応できるよう避難の方法も話し合っている。夜勤帯の避難については、自治会長、自治会の役員、家族に参加してもらっている。	年2回の火災避難訓練が行われ、消防署職員、自治会長はじめ役員の方がたや家族に参加いただいている。過去の自主避難を経験され、土砂災害避難マニュアルが作成され、ハザードマップも掲示されている。地域との協力体制が築かれ、災害対策に努められている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ともすれば馴れ合いになってしまいそうになるホームでの生活なので、入居者の尊厳とプライバシーの保護には特に気をつけている。目上の方と言う事を常に意識し敬語を使い、戸惑っている様子があれば、自尊心を気付けないようにさりげなく声掛けしている。トイレにはカーテンをつけ、「出ましたか」など他の方に聞こえるような声では言わないようにしている。勉強会などで、自分の対応を振り返れる機会を設けている	利用者の尊厳に関しては、事業所理念に掲げ、接遇や声掛けの勉強会が行われ、誇りやプライバシーを損なうケアにならないように常に気を配られている。浴室やトイレは、扉を開けても、カーテンで覆っており、設備面でのプライバシー保護に配慮されている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が話をしたい時に、必ず手を止めてゆっくり聞き、話しやすい環境を作っている。思いがなかなか伝えられない方でも、表情などから読み取れるよう心がけている。「どうされますか？」等の開かれた質問をして、職員本位で物事を進めないようにしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな食事時間や入浴時間の設定はあるが、一人ひとりのペースに合わせて食べたい時間に食べ、入浴したくなければしないなどなるべく希望に添うよう過ごしてもらっている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族さんで用意してもらえる方は、好みは分っているので任せている。職員が用意する方は、その方に良く似合うものや嗜好を把握し、購入している。同じ服ばかりや体型が合わなくなったものなどは着ないように配慮している。離床後は髪を整えたり入浴後にも、本人にあわせた整容をしていただいている		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが、煮物やおにぎりなど調理に参加してもらったり、盛り付けや片付けなど手伝ってもらっている。おやつを一緒に作って食べることもある。職員と会話をしながら、楽しく食事をしている。	食事の献立は食配事業者のメニューから選択している。主食(ごはん等)や汁物は事業所の厨房で用意するが、副食は外部事業者より納入されたものを調理し盛り付けている。利用者ごとの食事形態は厨房で行う。月1度程度は昼食やおやつ作りを職員と利用者が行い楽しんでいる。利用者のできることはその人の力を活かしながら、調理・盛り付け・片付け等職員と一緒にいるが、出来る人は少なくなりつつある。職員の食事は弁当などを用意して休憩時間にとっている。利用者の食事介助や会話をしながらその日の献立の味見などは行っている。	地域密着型事業所として、今までの生活をできるだけ継続できるように、家庭での食事を楽しむイメージをした支援が求められる。職員と利用者が一緒に食事を楽しめる工夫に取り組んでほしい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたメニューを出している。食事量や水分量を記録したり、食事量が少なかったときは本人に聞きながら時間を変えて勧めたり、好みのものを出したりしている。本人の状況に応じてきざみやミキサー食にしている。食事、おやつを調整したりして栄養状態の支援をしている		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣としてできる方には遠くより見守り、歯磨きは出来るが、毎回声掛けのいる方には尊厳を守りながら誘導している。自分でできない方には声をかけ表情を伺いながら介助している。歯科医の口腔ケアが必要な方は週1回訪問でケアを依頼し、その時に指示をもらい毎日のケアを実践している。		
43	(20)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の記録に排泄時間をわかる様に記入し、排泄パターンを把握するようにしているパットは使っているが、昼間オムツの方は今はない。トイレでの排泄を基本としており、声掛け、誘導のいる方でも、尊厳やプライバシーが守れるよう配慮してしている。	業務日誌や排泄チェック表により、その人の習慣やタイミング(排泄パターン)等を把握して、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。おむつ使用者はいないが、紙パンツにパットが多い。布パンツで自立している人もいる。夜間のポータブル使用者も1名いる。プライバシー配慮では声かけや誘導時に尊厳が守れるように心がけている。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のミーティング時に排泄をチェックし、その日にどう対応するかを決めて、職員が共有できるようにしている。水分、服薬、運動やトイレでゆっくりできるようにするとともに、ヨーグルトやオリーブオイルの摂取などでなるべく自然な排泄が出来るよう支援している。		
45	(21)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回は入っていただくようにしているが、本人の希望や体調により柔軟には対応している。時間を決めずに対応したいが、だいたい午前中に入浴のお誘いをしている。入浴剤を入れたり、歌を唄ったりとゆっくり入っていただくようにしている。	入浴は週3回、午前中を基本としているが、本人の希望や体調により柔軟に対応している。浴室は個浴でリフトや機械浴は無いが、やや重度の人でも入浴介助に努めている。季節湯や入浴剤も入れて楽しんでもらう。男性利用者への同性介助は出来ていないが、プライバシー配慮で入浴支援が出来ている。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間を設けているが、本人の希望に添っている。それ以外の時間でも体調を見ながら臥床を促すこともある。夜にゆっくり休めるよう、昼間に適度な運動をしたり歌を唄ったりして楽しく過ごしてもらっている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は薬情をファイルにして見れる様にしている。薬が変わった際にはミーティングで伝え、副作用や用法を共有し、本人の症状や体調の変化の確認が出来る様にしている。症状の変化は医師や看護師、薬剤師に報告、相談している。誤薬を防ぐために、本人の前で職員が呼称をして渡し、読める方には再度読んでもらい、確認できるようにしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物たたみ、掃除など本人のできる範囲でしてもらい、その方のしたいという気持ちに応えられるよう心掛けている。季節の展示物などの製作や外出したそうなどときにはドライブに行ったりしている。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が用事で外に出るときはなるべくドライブに誘っている。季節、季節の花や催しの見学には必ず外出している。自然に囲まれた環境なので外に出ただけで四季の移ろいを感じる事が出来るので、可能な限り外に出るようにはしている。	日常的な外出では、事業所の周辺が自然に囲まれてた環境で散歩にはよく出かけている。テラスや玄関前で四季の移ろいを感じながらお茶を楽しんだりもする。行事での外出では、毎月一度は季節のお花見や地域の催しに出かけている。お誕生日には本人の希望により外食や買い物にも出かける。家族の支援での外出もある。(旅行、お墓参り、外食、自宅日帰り等)	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や喫茶店に行ったときは本人の状態に合わせてお金を自分で持って支払ってもらうようにはしている。お金の使い方が分からなくなっている方が多くなっているので、自尊心を傷つけないために職員が支払うこともある。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を職員が手伝いながら家族宛に書いてもらったり、家族から来た手紙は、一週間ほどは毎日職員と一緒に読んで、部屋に掲示するようにしている。電話があれば取り次ぐようにしている。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでトラブルがあったりして、居場所が無いような時や、一人でゆっくりしたい時のために廊下や玄関にもソファを置いている。季節の花や、展示物、金魚などで居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。展示物を季節に合わせて変え、季節感、生活感を楽しんでいただいている。	玄関横に事務所が配置され、左右の各居室廊下やリビング・台所・畳の和室などが見渡せる。リビングからは掃出し窓でテラスに出て自然な景観が楽しめる。居室の廊下壁面には季節の手作り作品や行事の記念写真等が多く展示されている。植木や花等で季節感もある。畳のスペースにはホットカーペットや座椅子、玄関・廊下には一人でくつろげるソファやイスも置いている。居心地のよい共用空間づくりに配慮が見られる。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくりしたり、入居者同士で話ができるよう廊下や玄関にもソファを置いたり、和室にもホットカーペット、座椅子を置いて、その方に合った居場所を作ることが出来ている。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの椅子や、仏壇を置いたり、家族の写真や、孫の作品などを貼って居心地よく穏やかに過ごせるようにしている。テレビや冷蔵庫を持ち込んだりして、本人の自由に過ごしてもらっている	居室の設えでは、ベッド・寝具・整理ダンス・押入れ・洗面台・冷暖房機・カーテン・時計・温度計などがある。居室は広めで窓からは自然な景観が見られ四季の移ろいを感じられる。一部の居室は掃出し窓からテラスに出られる。居室の表札は木製の上品なものが付けられている。本人が居心地良く暮らせるように、使い慣れた家具やテレビ、冷蔵庫、仏壇、家族の写真、思い出の品が持ち込まれている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行を妨げるような場所には物を置かず、廊下の手すりを持って歩きやすい様にしている。トイレが分かるようにトイレと大きく書いたり、自分の部屋を間違わない様、表札をつけている。シルバーカーをすぐ隣に置いたり、4点杖の使用の声掛けをするなど安全に過ごせる環境を作る事を心掛けている。		